

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2053号 2011年02月07日(月)

《 fundamental changes in Japan 》

愛知県、名古屋市や陸前高田市で行われた地方選挙は、日本の政治のランドスケープが大きく変わってきていることを示しました。この大きな変化が日本経済や市場にどう影響するかはまだ直ちには分からないが、チュニジアやエジプトで見られる「民衆の権力に対する対抗、反乱」が日本では既成政党への不信、権力に繋がる人間への忌避となって現れている印象がする。

選挙に見られる明らかな兆候は、「何も出来ない今の政党中心の国レベルの政治に対する絶望感」「既成政党に対する不信感」であり、特にその中でも今に政権を持っている民主党に対する選挙民の厳しい目です。何よりも「民主王国」（2009年の衆院選で民主が全15小選挙区で議席独占）の異名まである愛知県で、民主党推薦の県知事候補、市長候補がともに敗北した。

では最大野党の自民党が勝ったかということ、県知事選挙では同党を離党した無所属の大村候補が勝った。圧倒的な票差で。自党の知事推薦候補も大敗したという意味では、自民党も敗者。河村市長が元民主党、大村候補が元自民党というやや複雑なねじれはあるが、いずれにしても「党を離れたこと」で二人とも今の人気（得票）がある。独裁批判もなんのその、市民もそれなりの覚悟を持ったことでしょう。

日本の中央部の都市（県）で、日本の国政を担う政党が全く勝てなかったという意味合いは重い。かつ、党籍が明確な人も多い名古屋の市議会が、住民投票で解散、選挙のやり直しとなった。日本でリコール投票によって地方議会が再選挙となったのは初めてだろう。日本を代表する民主、自民という政党は全くの形無しだったのである。

別の形での地殻変動の兆しも見える。全国紙ではあまり取り上げられていないが、小沢一郎氏が地盤とする陸前高田市で同氏が支持する民主党推薦の無所属新人で元県議の菅原一敏氏（66）が負け、無所属新人で前副市長の戸羽太氏（46）が当選した。強制起訴されてから初めての地元・岩手県での市長選だったが、小沢一郎氏にとっては痛手となったが、これは「強固な地盤」と呼ばれたようなものが、例え小沢一郎氏の選挙区でも崩れてきていることを示している。

これは考えて見れば、ある意味当然である。戦後ずっと地方は中央からお金をもらっていた。日本という国のシステムが、「まず国にお金を集める」「それを地方に分配する」と

いう形になっていたからだ。しかし、それが国の財政難で従来ほど潤沢には出来なくなっているし、子供手当などは国がマニフェストに反する形で「地方の負担」を求めている。既に「中央に付き従えば良いことがある」という時代ではない。また中央政界が「希望が持てない状況」を続ける中で、地方の有権者は「地方では異なる形での政治の実験をしよう」という選択を行った可能性が強い。

しかし世界の大きな流れを読むならば、「既成」が新しい時代の変化を読めていないことが大きな変化を引き起こしていると思う。チュニジアのベンアリ前政権もそうだし、エジプトのムバラク政権も、国民の多くが貧しいことは知っていながら、それで自分たちが非難される筋合いではない、と考えていた。そしてそこには実際に長期政権に繋がる汚職、賄賂、腐敗があって、現象的には警察官の若者に対する暴力、それをキャリーしたフェイスブックなど新しいメディアの力が、政権崩壊かその一步手前までの事態をいくつかの国で引き起こしている。

「既成政党」が国民のニーズの変化、多様化するメディアのパワーに対応できず、国民の信頼を失っているのは日本も同じである。今では大阪と名古屋では「“政党”はあるのか」という状態になっている。この場合の“政党”は既成政党を指す。名古屋でも大阪でも、新しい政治団体は出来ているので。ランドスケープは中央ではなく、地方から大きく変わりつつある。それが法的枠組み（例えば政党中心の小選挙区制）が違う中央でどう具現化するかはまだ分からない。

特に名古屋は「民主王国」とも言われる状況だったのに、河村さんという個人が抜けただけであつという間に「既成政党がほとんど力を持たない地域」になった。この状態は名古屋、大阪のみならず他の地域に広がる可能性がある。なのに、中央の政界では日本の5年後、10年後を見据えた議論が行われないうえに、マスコミの諸問題への報道量が増えれば増えるほど「しかし実際には何をしているのか」と国民は不信感を募らせ、実際には「中央の政治の無能」を悟って、政治に関心をなくしている。

今の日本の不幸は、明らかに地方政治の分野で新しい動き（善し悪しは別にして）が始まっているのに、中央の政治家の多くがその変化に気付かず、「中央の政治の停滞」が顕著になっていることだ。中央でも新しい世代の指導者は現れていないが、といって橋本大阪府知事や河村名古屋市長が直ぐに国のトップになれるかどうかには、システム的にも疑問を持つことが多い。いろいろな意味で日本の政治はねじれている。しばらくこれが常態になるかもしれない。

《 getting bullish 》

マーケットですが、「エジプト情勢」は週末を超えてもムバラク大統領が辞任せず、一方で規模を縮小しながらも反政府行動が続いている中で、市場にとっては「材料疲れ」な存在となってきている。日本時間の深夜の間にスレイマン副首相が反対各派と話し合いに入っていくつかの点で合意は出来たが、反対派の中には依然として「(ムバラク大統領

領の)即時退陣」を求めているグループがある。

事態は以前流動的だが、沈静化の兆しもあって市場ではエジプト情勢への「材料疲れ」の傾向。このトレンドは先週の後半から見られたもので、先週の大部分の期間を通じて「risk averse」な投資態度から81円台まで買われていたドル・円は、先週のニューヨーク市場の引けでは82円台になっての週明けだ。

エジプト情勢を「材料疲れ」という視点は、世界の株式市場では一足早く見られたもので、例えばニューヨークの株式市場は先週一週間エジプトを気にしながらもアメリカ経済の足場がしっかりしてきたことを示す統計を材料に基調上昇を続けた。金曜日の引け値は2年8ヶ月ぶりの高値である。底意が強いのは、金曜日の寄り前の雇用統計が非農業部門就業者数でわずかに36000人とどまったことでも止まらなかった。久しぶりの高値だが、「市場がはしゃいでいる」という印象はしない。

私が先週の市場で今後注意すべき動きだと思うのは、幅は違うが日本とアメリカを含む世界各国での長期金利の上昇傾向だろう。長期金利の動きは為替には響く。世界的な長期金利の上昇は、その上昇ペースの遅いことが予想される円相場の軟化に繋がりやすい。これは世界的な食糧品価格の上昇などインフレ傾向や、実態として世界の景気の上向きを反映している。

この点で注目したのは、先週非常に久しぶりに記者の質問にも答えたバーナンキ FRB 議長の発言である。「アメリカの超金融緩和と世界的な食糧品価格の上昇は全く関係ない」と述べた。そういう態度でなければ金融緩和を続けていられないという事情は分かるが、「全く関係ない」とはどう見ても言えないでしょう。こうした当局の態度が長期金利の上昇を招かないかと考えています。

最後に、つい先ほどウォール・ストリート・ジャーナルに財務省の人民元に関する姿勢の変化を見つけたので、それを掲載しておきます。「米財務省、人民元に対する態度を硬化」とあった。為替操作国に中国を認定はしないが、中国の通貨は「substantially undervalued」と断定している。

「WASHINGTON- The U.S. Treasury refrained from labeling China a currency manipulator but took a tougher line than in past years, saying the yuan is "substantially undervalued," warning "progress thus far is insufficient and that more rapid progress is needed.'」

The Treasury's much-awaited report on China's currency reform steps up the rhetorical heat from the last update in July, which merely called the yuan "undervalued" instead of "substantially undervalued."

The Treasury is required to review twice a year whether China and other nations are manipulating their currencies. Such a declaration against China could have major ramifications for the international financial system as it could set off

a trade war between the U.S. and its largest trading partner. The U.S. so far has stopped short of calling China a currency manipulator, and instead has used speeches and diplomacy to pressure the country to free its grip on the currency's value.」

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|----------|--|
| 2月7日（月） | 12月景気動向指数（速報）
休場／中国・台湾・ベトナム |
| 2月8日（火） | 1月企業倒産件数
1月景気ウォッチャー調査
ブラジル1月消費者物価
休場／中国 |
| 2月9日（水） | 1月消費者態度指数
1月工作機械受注（速報）
バーナンキ米FRB議長議会証言（下院予算委員会）
英中銀金融政策委員会（10日まで） |
| 2月10日（木） | 12月機械受注
1月国内企業物価指数
米1月卸売在庫
イタリア国債入札
中国1月貿易収支
豪1月雇用統計
前原外相がロシア訪問（13日まで） |
| 2月11日（金） | 東京市場休場（建国記念日）
米12月貿易収支
米2月ミシガン大学消費者信頼感指数（速報）
インド12月鉱工業生産
韓国中銀金融通貨政策委員会 |

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。これまでの寒さもかなり和らいできて、しかし油断すると身体を冷やしてしまう、という状況。インフルエンザの次は花粉症となにかとややこしい季節ですが、まあ暖かくなるし、皆さんにもお気を付けてこの時期をお過ごしください。

日本時間の今朝、チェゼーナから電撃移籍した長友がインテルの試合に途中出場したそうで、「よかったな」と思っています。日本では左サイドバックで列を上がって攻め込み、見事なセンタリングを何回も見せた彼が、新チームでどのような活躍をしてくれる

のか楽しみです。中田も強いチームに移籍したときはあまり試合に出られなかった。長友にはチェゼーナ並（確か全試合、全時間出場）でなくても、毎試合活躍して欲しいと思う。やっぱり先発をして欲しいと。

それにしても、相撲ファンとしては春場所の休場は残念です。年に6回と昔よりはよほど数多い場所があるにせよ、まあそのくらいの間隔で場所をやってこそ力士の力が試せると思う。「2場所中止」の観測も出ているが、あんまり本場所がないとファンも相撲も忘れてしまうかもしれない。早く膿を出して場所を再開して欲しいと思います。相撲を見に行くといつも思うが、あそこには非日常と独特の美しさがある。もっぱら身体を鍛えている人間の。

「相撲なんてなくて良い」という人もいますが、私は絶対反対です。それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》